

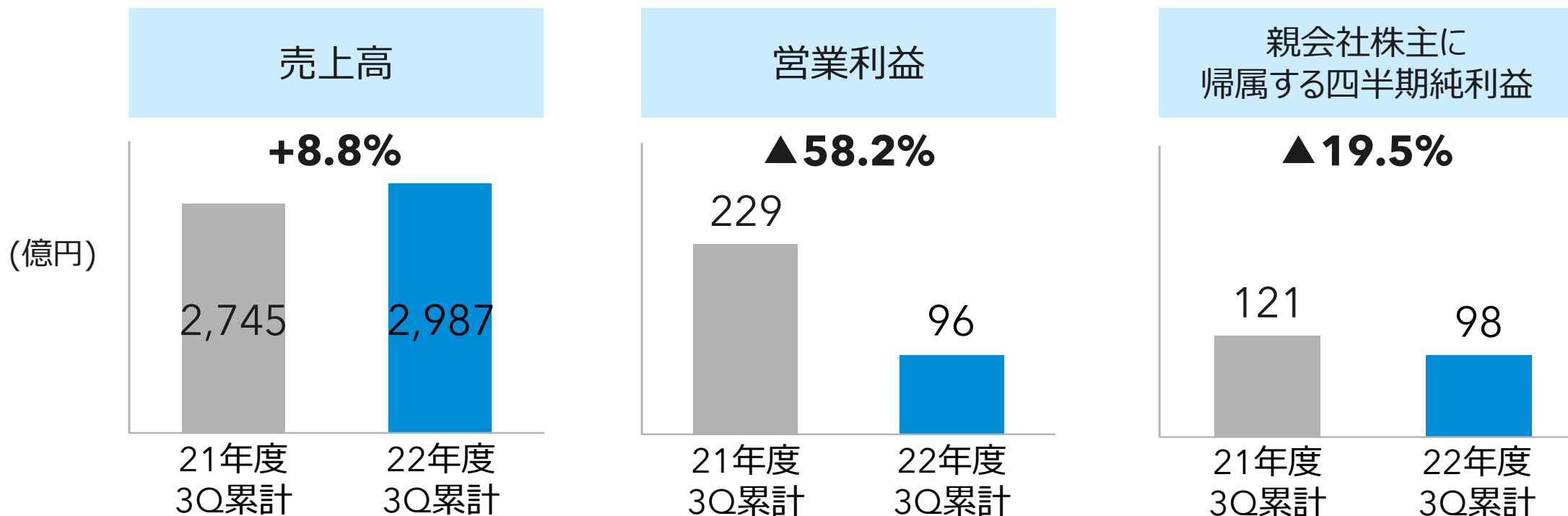
2023. 2. 8

# 2022年度 第3四半期 決算説明

東洋紡株式会社

## 第3四半期実績

工業用フィルムの市況悪化に加え、原燃料価格高騰の影響が大きく、製品価格改定を進めるも増収減益。四半期純利益は、特益を加え 98 億円



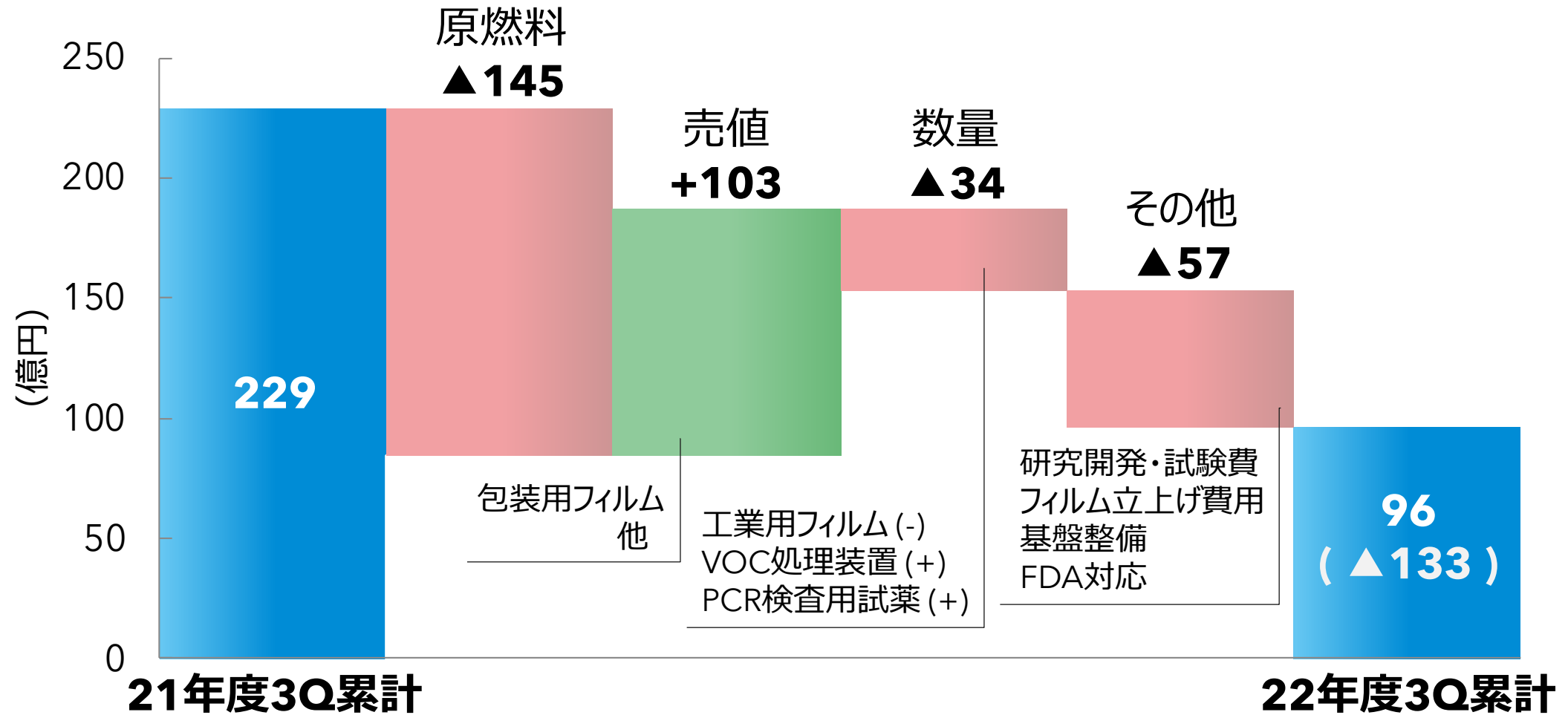
## 2023年3月期通期予想

原燃料価格の高止まり、スマホ・TV用途の需要回復遅れを踏まえ、営業利益を 110 億円に修正。当期利益は 65 億円を予想

(億円)

	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	増減	
			金額	率
売上高	2,745	<b>2,987</b>	+242	+8.8%
営業利益	229	<b>96</b>	▲ 133	▲ 58.2%
(率)	8.3%	<b>3.2%</b>	-	-
経常利益	182	<b>69</b>	▲ 113	▲ 61.8%
特別損益	▲ 32	<b>73</b>	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	121	<b>98</b>	▲ 24	▲ 19.5%
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	380	<b>240</b>	▲ 140	▲ 36.8%
EPS (円)	136.4	<b>109.7</b>	-	-
ROE* <small>* 年換算ベース。 (四半期純利益×4/3)÷期首・期末平均自己資本</small>	8.4%	<b>6.6%</b>	-	-
減価償却費	151	<b>144</b>	▲ 7	▲ 4.5%
設備投資	227	<b>278</b>	+50	+22.1%

# 営業利益の増減要因



	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計
為替レート (円/US\$)	111	136
国産ナフサ (千円/kl)	54	80

	(B)		(A)	(億円)
	21/3末	22/3末	22/12末	増減(A)-(B)
総資産	4,912	5,178	<b>5,299</b>	+121
現預金	347	272	<b>157</b>	▲ 115
棚卸資産	763	960	<b>1,205</b>	+244
有形固定資産	2,246	2,276	<b>2,400</b>	+125
純資産	1,886	1,971	<b>2,036</b>	+65
自己資本	1,857	1,949	<b>2,014</b>	+66
うち利益剰余金	644	747	<b>809</b>	+62
非支配株主持分	29	23	<b>22</b>	▲ 1
有利子負債	1,870	1,912	<b>1,988</b>	+75
D/E レシオ	1.01	0.98	<b>0.99</b>	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.3	3.4	<b>5.7</b>	-

\* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

(億円)

	売上高		営業利益		
	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	増減
フィルム・機能マテリアル	1,273	<b>1,283</b>	166	<b>45</b>	▲ 121
モビリティ	322	<b>372</b>	▲ 14	<b>▲ 29</b>	▲ 15
生活・環境	824	<b>945</b>	27	<b>16</b>	▲ 11
ライフサイエンス	246	<b>293</b>	64	<b>80</b>	+16
不動産・その他	81	<b>94</b>	16	<b>17</b>	+1
消去・全社	-	-	▲ 29	<b>▲ 32</b>	▲ 3
合計	2,745	<b>2,987</b>	229	<b>96</b>	▲ 133

(億円)

	21年度			22年度			3Q累計 増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	859	414	1,273	867	416	1,283	+10	+0.8%
営業利益	122	43	166	42	3	45	▲ 121	▲ 72.8%
(率)	14.2%	10.5%	13.0%	4.9%	0.7%	3.5%	-	-

## 包装用フィルム

- 製品価格の改定を進めるも、原燃料価格高騰の影響を大きく受ける

## 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルム、セラミックコンデンサ用離型フィルムが、一時的な市況悪化の影響により、数量減

## 機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、中国のゼロコロナ政策の影響受け、スマホ・家電の需要減

(億円)

	21年度			22年度			3Q累計 増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	216	106	322	241	131	372	+51	+15.7%
営業利益	▲ 9	▲ 6	▲ 14	▲ 20	▲ 9	▲ 29	▲ 15	-
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-

## エンジニアリングプラスチック

- 国内は、製品価格改定を進めるも、原燃料価格高騰の影響を大きく受ける
- 海外は、製品価格改定を進め、円安効果もあるも、原料価格・物流費の高騰、中国のゼロコロナ政策の影響を受け、販売減

## エアバッグ用基布

- 製品価格改定は進めるも、原糸などの原料購入価格の上昇により、スプレッドは改善せず



(億円)

	21年度			22年度			3Q累計 増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	547	277	824	646	299	945	+121	+14.7%
営業利益	19	8	27	12	4	16	▲ 11	▲ 40.5%
(率)	3.4%	2.9%	3.2%	1.9%	1.2%	1.7%	-	-

## 環境ソリューション

- 世界的なEV化に伴うリチウムイオン電池（LIB）の需要拡大を受けて、LIBセパレータ工場向けのVOC処理装置、交換エレメントの販売が堅調

## 不織布マテリアル

- 製品価格改定を進めるも、原燃料価格高騰の影響を大きく受ける

## 高機能ファイバー

- “ザイロン”は、建築補強用途、自転車タイヤ用途、“イザナス”は、釣糸用途を中心に販売が堅調

(億円)

	21年度			22年度			3Q累計 増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	163	82	246	193	100	293	+47	+19.3%
営業利益	46	18	64	54	26	80	+16	+24.6%
(率)	28.2%	21.6%	26.0%	28.0%	25.5%	27.2%	-	-

## バイオ

- 新型コロナの第7波、第8波の感染拡大を受け、PCR検査用試薬が販売を伸ばす
- 診断薬用原料酵素、遺伝子検査用試薬の原料酵素は、欧米向けの販売が拡大

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の販売は堅調も、原燃料価格高騰の影響を受ける

## 医薬

- 医薬品製造受託は、FDAからの Warning Letter の解除に向けて対応中

# 2022年度 業績見通し

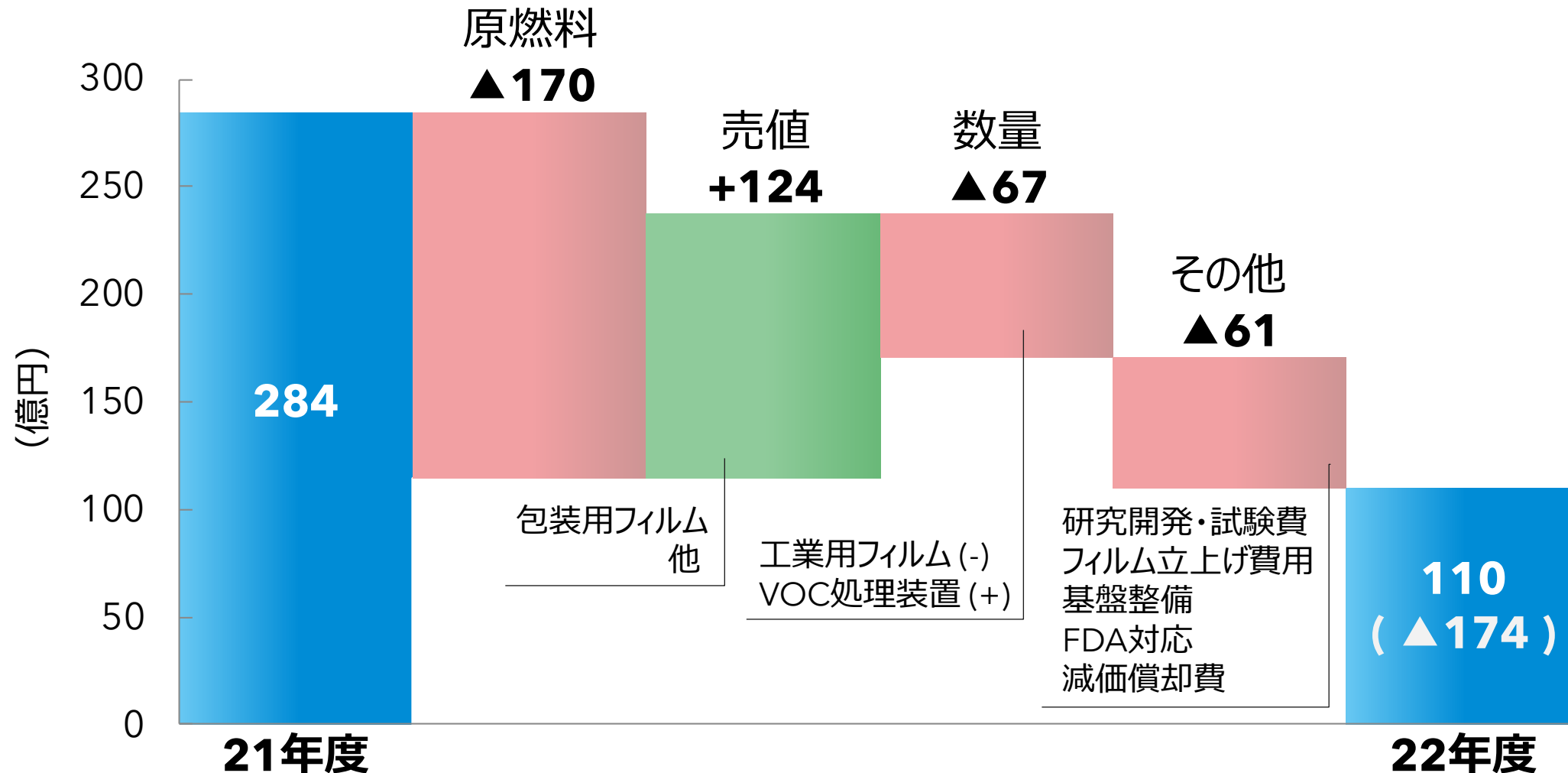
TOYOBO

原燃料価格の高止まり、スマホ・TV用途の需要回復遅れを踏まえ、営業利益を110億円に修正。  
当期利益は65億円を予想

(億円)

	21年度	22年度			増減		直近予想 (22/11)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率	
売上高	3,757	2,011	1,989	<b>4,000</b>	+243	+6.5%	4,100
営業利益	284	79	31	<b>110</b>	▲174	▲61.3%	170
(率)	7.6%	3.9%	1.6%	<b>2.8%</b>	-	-	4.1%
経常利益	231	68	7	<b>75</b>	▲156	▲67.5%	140
特別損益	▲83	81	▲58	<b>23</b>	-	-	28
親会社株主に帰属する当期純利益	129	110	▲45	<b>65</b>	▲64	▲49.5%	120
EBITDA	485	175	130	<b>305</b>	▲180	▲37.1%	375
EPS (円)	144.8	123.4	▲50.3	<b>73.1</b>	-	-	134.9
減価償却費	201	96	99	<b>195</b>	▲6	▲2.9%	205
設備投資	336	175	205	<b>380</b>	+44	+13.0%	380

# 営業利益の増減要因



	21年度	22年度	直近予想 (22/11)
為替レート (円/US\$)	112	135	140
国産ナフサ (千円/kl)	57	76	78

# セグメント別見通し

**TOYOBO**

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (22/11)
	21年度 実績	22年度 見通し	21年度 実績	22年度 見通し	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,703	<b>1,710</b>	199	<b>52</b>	▲147	100
モビリティ	447	<b>510</b>	▲18	<b>▲40</b>	▲22	▲34
生活・環境	1,143	<b>1,270</b>	35	<b>25</b>	▲10	33
ライフサイエンス	350	<b>390</b>	87	<b>94</b>	+7	90
不動産・その他	114	<b>120</b>	22	<b>22</b>	▲0	21
消去・全社	-	-	▲40	<b>▲43</b>	▲3	▲40
合計	3,757	<b>4,000</b>	284	<b>110</b>	▲174	170

補足

# セグメント別情報

**TOYOTO**

(億円)

売上高	21 年度					22 年度			
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計
フィルム・機能マテリアル	457	402	414	1,273	1,703	453	414	416	1,283
モビリティ	111	105	106	322	447	118	123	131	372
生活・環境	277	270	277	824	1,143	321	325	299	945
ライフサイエンス	75	89	82	246	350	87	106	100	293
不動産・その他	26	27	28	81	114	31	33	30	94
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	946	892	907	2,745	3,757	1,010	1,001	976	2,987

営業利益	21 年度					22 年度			
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計
フィルム・機能マテリアル	68	54	43	166	199	35	7	3	45
モビリティ	▲ 5	▲ 4	▲ 6	▲ 14	▲ 18	▲ 8	▲ 13	▲ 9	▲ 29
生活・環境	15	4	8	27	35	3	9	4	16
ライフサイエンス	19	28	18	64	87	21	33	26	80
不動産・その他	4	7	5	16	22	3	6	7	17
消去・全社	▲ 8	▲ 10	▲ 11	▲ 29	▲ 40	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 32
合計	92	79	58	229	284	46	33	17	96

## SBT (Science Based Targets) 認定取得

SBTとは、パリ協定が求める水準に整合した、企業の温室効果ガス排出削減目標

当社グループの2030年度までのGHG排出量削減目標が  
SBTイニシアチブに認定された (2022年12月)



### SBT認定を受けたGHG排出量削減目標

Scope1,2	2030年度までにGHG排出量を2020年度比で27.0%削減
Scope3	2030年度までにGHG排出量を2020年度比で12.5%削減

※2050年度にはネットゼロを目標としています (Scope1,2)

- ・日本のSBT認定企業は 350 社
- ・繊維製品セクター内では、2 番目の認定取得  
(2023年1月10日時点)

### 2030年度までの主な施策

Scope1,2	<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ (業務改善)</li><li>・生産効率向上</li><li>・再生可能エネルギーの導入/調達</li><li>・燃料転換 (脱石炭)</li><li>・カーボンフリー燃料の導入検討</li><li>・購入電力の低炭素化 など</li></ul>
Scope3	<ul style="list-style-type: none"><li>・低炭素/脱炭素原料の調達増</li><li>・調達先との連携によるGHG削減</li><li>・グリーン物流の推進</li><li>・リサイクル材・バイオマス材の拡大</li><li>・VOC回収装置等の省エネ化 など</li></ul>



## バイオ工場 製造設備の新設

- 遺伝子検査に用いられる PCR 検査試薬、酵素や抗体などの遺伝子診断薬原料の製造設備
- 2023 年 3 月に着工、2024 年 11 月に稼働開始を目指す
- 設備投資：約 65 億円
- 生産能力：現在の約 3 倍に増強
- **感染症向け検査薬や原料の開発・生産体制の一層の強化を図る**



新設する製造設備  
(外観イメージ)

## 新型コロナウイルス および インフルエンザウイルス遺伝子検査試薬

- 新型コロナウイルスの RNA と、A 型および B 型インフルエンザウイルスの RNA を、リアルタイム PCR 装置を用いて、**同時検出**するキット
- RNA の精製無しで、最短約 75 分で検体の調製から検出まで可能
- 2022 年 11 月 8 日、厚生労働省より製造販売承認を取得。医療機関および検査施設向けに販売開始

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

**TOYOBO**  
Beyond Horizons